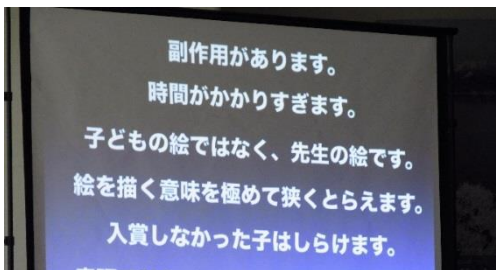


図工美術教育 理論研修会 終了報告

テーマ	子どもの表現意欲を高める授業のために		
日 時	平成 27年 7月 9日 (木)		
会 場	石狩教育研修センター		
講 師	山 崎 正 明 氏 (北翔大学 准教授)		
参加者	25名		
研修会 の 様 子		久しぶりにお会いして これまで石教研図工美術部会で、同じ教職員として活躍されていた山崎正明先生ですが、現在は北翔大学に移られ、教育者の人材育成に携わっています。教育学科に所属する大学生がさまざまな年代の子どもたちと、教育実習を通じて触れ合うことでどんどん成長している姿が伝えられました。	
		子どもの行為から学ぶことの大切さから 「どう描かせたか」ではなく「その表現活動を通じて、子どもが考えたり学んだりし、子どもの中に何が生まれたのか」という、子どもの学びをとらえることで、「子どもが主題を生み出す」授業をつくることのできるのです。「生きる力を育むことが教育」ということです。	
		美術教師が陥る授業から 「作品を作らせる」ことにとらわれがちですが、活発さや集中力よりも「子どもの心や頭の中で何が起きているか」という視点を持つことで、授業づくりが変わります。それは、その授業を話す先生が子どもの姿を思い浮かべているからです。子どもに寄り添う教師の姿から、意欲を引き出す授業が生まれるのです。	
		子どもが制作している様子から 子どもの表現活動の様子がたくさん紹介されました。幼児がお互いの表現を見ながら、影響しあっている様子から、子どもの姿、あるいは日々の授業はどうあるべきかをより現実的にとらえることができることに気づかされました。	
		子どもが描いた絵について 描かれた絵について、子どもから教えてもらった絵の意味を手がかりに、紹介していただきました。山崎先生や子どもにかかわった教師が、子どもに寄り添いながら、色と形の意味や子どもの心の変容を感じとることを通して、子どもにとって「本当に必要な美術教育とは何か」について考える貴重な機会となりました。	